

水の源

MIZUNOMINAMOTO

2018

41

SUMMER



巻頭インタビュー

水源の里へ思いを馳せる

ニュース伝える難しさ心に——

大阪総合研究所代表・ニュースキャスター 辛坊治郎さん

ウォークルポ

川でつながる里山・里海
共生へ“緑のコンビナート”
バイオマス産業創出に挑む

島根県隠岐の島町

ビューティーツリズムでまちおこし
～世界中へ美を届ける～

愛知県東栄町

首長リレー連載

滋賀県米原市

平尾道雄市長

水源の里のうまいもん

とちお
栃尾あぶらげ

新潟県長岡市

きとりすぎ
「木頭杉一本乗り大会」

なごり
徳島県那賀町

2018年7月29日(日)開催予定

那賀町名産・木頭杉の運搬手段として磨かれた伝統の技“一本乗り”。
那賀川の急流を丸太一本でゴールまで下りきれるかを競う。また、下った距離で段位も決まる。
今年で31回目を数えるこの大会は、毎夏、県内外から名人を目指し参加者が多数集まる。

ニュース伝える難しさ 心に

大阪総合研究所代表・
ニュースキャスター

辛坊治郎さん

——お生まれは？

鳥取県の米子市です。ですがすぐ埼玉県入間市に移り住みました。元々は武蔵町と呼んでいましたが、それが豊岡町になり、入間市になり、そこで育ちました。

入間川は水の美しいところでしたよ。荒川の上流で、わたしはその川でよく遊び、水泳も覚えました。池袋から西武線1本で、東京からも近くて。山も水もきれいなところでしたね。そういう意味ではまさに“水源の里”で遊んでいたということになりますね。

小学校へ上がる1年前から大学を卒業するまでずっとそこに住んでいました。入間市の西が飯能で、そこから秩父、奥武蔵と、ずうっと連なっていて、それからは荒川の水源地に至ります。

——今のお仕事に入られたきっかけは？

読売テレビにアナウンサーとして入社しまして、そこで『ズームイン!!朝!』の大阪キャスターを務めたのがこの道でのスタートです。基本的にはどんな仕事につい

Profile 辛坊治郎さん

1956年、鳥取県に生まれ、のち埼玉県入間市で暮らす。早稲田大学法学部卒業後、読売テレビ放送に入社。アナウンサー部に配属され、『ズームイン!!朝!』などを担当。2000年より報道局情報番組部長に就任。「ニューススクランブル」では、開始当時は時間帯最下位だった視聴率を最終的に最高位に引き上げるなどの実績を上げた。現在は退職し、シンクタンクである大阪総合研究所の代表を務める。主に大阪府を中心とした近畿地方の政治・経済・文化やメディアの裏側、アジア・オセアニアにおける民族文化・経済開発についての講演を行う。

ても、相手は人間ですからね。でも実はわたし、どちらかというコミュニケーションが苦手だったんです。ですから本当は家具職人とか大工とかの方が向いていたんじゃないかと今でも思います。でもそういう仕事をやる場合でも、やはり人とのコミュニケーションは欠かせないですよ。そういう意味ではメディアという最もベーシックな世界で生きてきたんじゃないかと思えます。

——ヨットがご趣味で、事故にも遭われたと聞きました。

大学に入ったときに、わたし早稲田大学なんですけど、2年間体育の種目を取る必要がありました。そのうちの1つとしてヨットを選んだんです。というのも、ヨットを選択すると夏に1週間合宿に行くだけで単位がもらえるから、という理由だけだったんですね。でもその後も大学のヨット同好会に入って、卒業するまでいました。ですから理論から実技まで一応は身につけました。当時乗っていたヨットは太平洋横断に使うような、キャビンという居住スペースのあるヨットじゃなくて、ディングという競技用のヨットでした。

その後、2013年ですが、ヨットで太平洋を横断するプロジェクトの中で、クジラと接触する事故に遭いました。そのときに乗ったヨットは、いままで乗っていたディングとはまるで違うものだったので、乗り始めはとまどったんですが、ディングと理論は同じですけど、むしろディングの方が難しいですね。下に錘が付いていないので、風が吹くとディングは簡単に転覆しますが、クルーザーは下に錘が付いていますから、わたしみたいな事故に遭遇しない限りは安定度は普通の舟よりはるかに高いんですがね。

——一緒にヨットに乗られた岩本光弘さんとはずっとクルーを組んでおられたのですか？

いえ、当時わたしはヨットの雑誌『舵』に連載を持っていて、わたしが沈めてしまったヨットのオーナーが、このヨットで冒険しませんかという提案をしてくれました。その記事を読んでおられた岩本さんが、じゃボクがやりますとって名乗り出て始まったんです。だから全く初めてお会いしました。ヨットのご経験も、岩本さん自身はそれほどでもないんですが、もともと岩本さんの奥さんがアメリカ人の方で、ディングに乗っていたんです。奥さんの手ほどきでディングに乗り始めた聞いています。

——遭難されたのは、何が原因だったのですか？

この年6月16日に、福島の小名浜から出航しました。その後21日の朝に事故に遭いました。出航して5日目で、日本から1,200キロの地点だったのですが、何の

前触れもなくガンと何かにぶつかった。クジラにぶつかったんです。後で聞いたらマッコウクジラだったようですね。

衝撃はあったんですけど、太平洋上ではクジラにぶつからなくても、波とか同じような衝撃音はしょっちゅうするんです。わたしは波に当たった衝撃音だと思っていました。でも映像記録を見ると結果的にはクジラにぶち当たっていました。相方の岩本さんを見たら浸水してきて足が水に浸っていました。それで気がついたんです。びっくりしましたね。(笑)どうしようもないですからね。沈むしかない。

でも運よく救助されて、まさに九死に一生でした。海上自衛隊の飛行機の音が聞こえたときは夢かと思いました。救助要請、海上自衛隊への連絡、救助機の荒海への着水、すべてがラッキーだったとしかいえないですね。

——最後にお仕事の話になりますが、ニュースを伝える立場で心がけておられることは何ですか？

ニュースって、やたら専門用語が多いんですよ。皆さん分かるだろうという前提で伝えるニュースが多いですが、実はほとんどの人は分かっていないんですよ。

簡単に「今、円高です」って言いますが、じゃ円高がどういう意味なのか、なぜ起きているのか、これからどうなるのか、そこまで解説しないと、円高ですと言われても、何だいそれ!となってしまいます。105円が110円になるのが円高なのか、105円が100円になるのが円高なのか、そこから大概の人は分かってないわけで、それを円高だと言ってしまうのはあまりにも乱暴だろうと思います。一方的に「伝える」ことと、相手に理解される「伝えられる」こととは別モノなんです。

最近では「仮想通貨」という言葉も普通に使われていますが、視聴者でも分かっている人はごく一部です。わたしもある程度の知識くらいはありますが、テレビを見ている人と情報を共有するためには、ベースの知識くらいはお互い分かっていないと話が通じません。まず「仮想通貨」って単に言うのではなくて、仮想通貨って何なのか、一回一回まだ説明する必要があると思います。伝えることの難しさを常に心して仕事にあたっています。

——ありがとうございました。

【聞き手・町井且昌】

本誌創刊号より務めさせていただきました編集長を本号をもって退任いたしました。長い間のご支援をありがとうございました。町井且昌

川でつながる里山・里海

共生へ“緑のコンビナート” バイオマス産業創出に挑む



おきのしまちよう
隠岐の島町 島根県隠岐郡

日本海に浮かぶ秘境、隠岐。何億年にも及ぶ大地の成り立ちと、その変化とともに独自に育まれた動植物の生態系、そしてそこに暮らす人々の歴史や文化が密接に関わり合い、日本で十指に満たないユネスコ認定の世界ジオパークとして異彩を放つ。

が、離島の繁栄を支えてきた森と海に忍び寄る陰。林業の不振により里山の管理放棄が進み、山林の荒廃が誘う里海の環境悪化も顕著に。

こうした危機に面して隠岐の島町では、川によってつながる森と海の共生を目指し、未利用の木質などをエネルギー源として活用するバイオマスと、生産の一貫性や効率を図るため施設群を集積するコンビナート方式の次世代産業を導入・創出することで、里山・里海の再生と活性化に挑む。

古は遠流の地ともなった絶海の孤島は今、「緑のコンビナート」構想により自給自足を旨とする“エコ・アイランド”へ。



隠岐の島町の中心となる西郷港は深い入り江にある天然の良港。本土とは島根（松江・七瀬〈しちるい〉港）、鳥取（境港〈さかいみなと〉）両県とフェリーで約2時間半、高速船だと1時間ほどで結ぶ。島後には隠岐で唯一の空の玄関口「隠岐世界ジオパーク空港」もあり出雲、大阪（伊丹）間を就航している



左：根元が6本に分かれた「かぶら杉」は樹高40mにもなり天空を貫くかのようだ。樹齢約600年という
中：玉若許命神社(たまわかすのみことじんじゃ)の境内にある「八百杉(やおすぎ)」は樹齢千数百年とされ、樹高30m、根元の幹周は20mに及ぶ。国の天然記念物に指定されている
右：島東部の海岸線。野趣に富んだ景観を呈するが、自慢だったクロマツはマツクイムシで壊滅状態に

島が日本海に沈没!?

同町は島の87%（約2万1千ヘクタール）が森林で、住民1人当たり面積は世界トップクラス。また高度に整備された林道と港を誇り、豊富なスギやクロマツを糧に林業経営を生計の中心とする時代もあった。しかし外材の輸入で木材価格が低迷し林業従事者が減ったことから里山の管理放棄が進行。追い打ちをかけるようにマツクイムシ被害が拡大し、区域によっては壊滅的な状況となった。

森林の荒廃は、海藻の宝庫だった

里海も損なう。山林からの土砂流入による漁業環境の悪化に加えて地球温暖化の影響もあり、海藻や魚介類が死滅する“磯焼け”の陰が忍び寄る。

こうした状況が重なると就労の場が縮小、そして若者を中心とした人口の流出を招き、経済は衰退を余儀なくされる。「このままでは島がいつ日本海に沈没してもおかしくない」。危機感を募らせた町の定住対策課長（当時）岡田清明さんは、新産業の創出を仕掛けることになる。緑のコンビナート構想スタート——10年前のことだった。

森と海と人の出会いが…

島根県の本土沖約50キロに位置する隠岐諸島。島前、島後の有人4島と180もの小島・岩礁から成り、島前の西ノ島（西ノ島町）、中ノ島（海士町）、知夫里島（知夫村）は阿蘇よりやや小さい規模のカルデラの外輪山。島後は直径20キロ程度のほぼ円形の島で、約150キロ北西の海域に浮かぶ竹島とともに隠岐の島町に属する。

約600万年前の火山活動で隆起し、現在の形になったのは1万年前。日本海の波風による浸食で海岸

線の多くは切り立った断崖絶壁を形成し、海にそそり立つような奇岩など、その絶景は神秘に満ちた自然美を映し出す。

150座以上あると伝わる神社の多さも隠岐の特徴の一つで、鳥居の傍らでは樹齢千数百年という杉の巨木がその威容を誇る。中世には後鳥羽や後醍醐といった貴人らの配流の地となった歴史も有し、故事にまつわる多彩な文化・伝統行事が人々の暮らしに彩りを添えている。

島後の西郷港は火山活動と浸食による深い入り江を持つ天然の良港で、江戸時代には北海道や東北・北

陸から大阪に向けて米や魚を運ぶ北前船の航行ルートとなり「風待ち港」として活況を呈したという。

大地の成り立ち・独自の生態系・人の営み一を要素とするジオパークとして日本委員会が登録する国内43か所の一つで、2013年にはより条件が厳しく我が国に隠岐を含め9例を数えるのみのユネスコ世界ジオパークにも認定された。

標高が最高607メートルに及ぶ隠岐の起伏に富んだ地形は深い森林を育み、山谷を縫うように下る川が運ぶ上流の腐葉土は、下流域の沿岸を類まれな海藻と漁場の宝庫とする恩恵をもたらす。森と海の、そして人との幸福な出会いがそこにあった。

持続可能な低炭素社会構築へ

山が保全されると、海の状態も良くなる。里山・里海で共通課題となる環境悪化への対策として同町は新たな試みに挑む。バイオマスを活用した次世代産業の施設群の集積を図るもので、一連の環境産業を「緑のコンビナート」と名付けた。

緑のコンビナートは、未利用の木質を活用するリグノフェノール実証プラントや木質バイオマス発電所、木質ペレット製造工場などの施設群を位置付けている。核となるリグノ



左上：緑のコンビナートの核となるリグノフェノール実証プラント
 左下：未利用の木質を有効活用するグリーンパーク発電所
 右：木質バイオマスのチップを製造するペレット工場

フェノール製造は、木質（リグニン）を化学処理して木質由来の接着剤や自動車部品に用いるバイオプラスチック材などの原料を取り出すもので、環境への負荷を減らせるうえ高い収益性に期待が集まっている。第2ステップとしてパイロットプラント建設を本年度予定しており、この検証を経て本格的な事業化を目指す。

また海洋バイオマスに着目して漁業環境の保全と里海の再生も併せて図る構想だ。いずれも自然環境への負荷が少なく持続可能で循環型の低炭素社会の構築を目指すプロジェクトで、軌道に乗れば、バイオマス産業の見学や“エコ島”をフィールドとしたツアーといった観光面での交流、そして新たな雇用の創出と若者の定住、人口の拡大など地域経済の活性化に寄与するものと期待が膨らんでいる。

世界モデル目指し

事業の導入・推進に当たって留意したのは、公共事業への過度な依存からの脱却。国の制度等を効果的に利用しつつも、民間活力の導入によって産業構造の転換を図ることが地域自立につながると考えた。

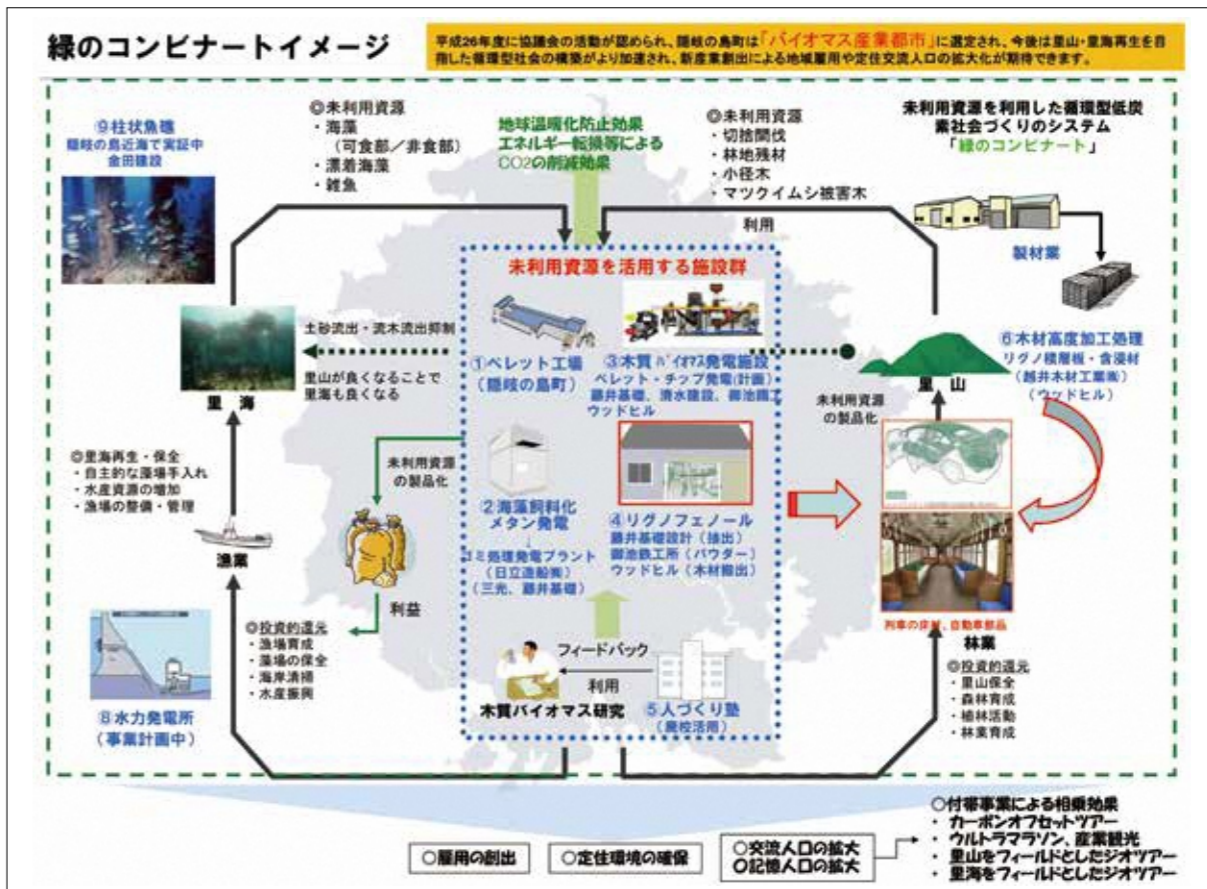
町としては2010年に里山・里海の再生を目指した「バイオマスタウン構想」を策定し国の認定を受ける。里山と里海をセットにしたバイオマスタウン構想は当時、全国初の試みだったという。11年には内外の関係機関・団体で推進母体となる協議会を創設。14年には「バイオマス産業都市構想」認定へと具現化に向けた展開を積み重ねた。

緑のコンビナート推進協議会は、地元の役場や森林組合などのほか大手建設会社や化学関係企業など計

14団体で構成され、現在の会長は前隠岐の島町長が務める。大学など共同研究団体の参画もあり、産官学一体となって資源供給体制の調整や環境産業の事業化と運営、広報・情報発信などに取り組んでいる。

木材生産プロセスの確立に向け、町が東京・港区と国産材の活用促進に関する協定を結んで隠岐材の都市部への搬出に努めるなど販路の拡大にも余念がない。民間の参入も趣旨が合えば自ずと得られるが、思惑がすれ違う場合はお引き取りを願ったこともあるという。

こうした一連の試みが成功することで、内外の他の過疎^{あか}地域でも同様の取り組みが可能な証しになればとの期待も高まる。目指すは「世界の隠岐モデル」一。



緑のコンビナート推進協議会の事務局を務める岡田清明さん。旧西郷町生まれで、島外の工業大学を卒業後ほどなくして帰郷し町の土木技師に。退職前の定住対策課長時代から取り組む新産業創出に熱い想いを語る

これからが勝負

1954年生まれの岡田さんは定年に少し先じて6年前に町を退職。以後は地元のコンサルタント事務所に身を置き、緑のコンビナート推進協議会の事務局として関連業務に打ち込んでいる。プロジェクトのPRや関係機関・企業との連絡調整などに、年の3分の1は島外を東奔西走するという。「いつまでこの取り組みに関わるおつもりですか」とヤボな問いを投げ掛けると、緑の山並みに視線を移しながら「う〜ん、ずうとでしょうね」と呟くように応じた。

島を何とかしたいという想いを募らせる岡田さんは「とにかく隠岐を好きになってもらうことです」と力を込める。「男女の仲と同じで、好きになればいろんなことするじゃないですか…」と邪気のない微笑^{なだ}を湛える仕掛け人は、遠く日本海の水平線に時たま現れては消える蜃気楼とは異なる、手応えの確かな将来像を見据えているようだ。

そして、成功すれば世界初の例となるリグノフェノールの本格商品化を当面する目標の焦点に挙げると「これからが勝負です」と、口を真一文字に結んだ。

【文・鹿野哲人】

隠岐の島町はこんなまち



島根半島の北東約70キロの海上に位置する、人口14,402人、面積242.82km²の町。島はほぼ円形に近い火山島で、周辺の海域全域は大山隠岐国立公園に指定され、雄大な海洋風景や急峻な山並みが風光明媚な景観を醸し出している。また美しい地質遺産を有し、何億年も前から「大地の成り立ち」、その大地の上に成り立つ「独自の生態系」、さらにはそれらの上に成り立つ「古代から現代へと続く人の営み」の関係を一体的に体験できる隠岐諸島は、平成25年に「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」に認定された。

ビューティツーリズムで まちおこし



～世界中へ美を届ける～

とうえいちよう
東栄町 愛知県北設楽郡

ファンデーションの原料となるセリサイト（絹雲母）が日本で唯一採掘される愛知県・東栄町。ここで今、地域資源を活かした「ビューティツーリズム」によるまちおこしが注目を集めている。今回は、その中核となる「naori（なおり）」の取り組みを取材した。

“美の原産地” 東栄町へ

女性は一生にどのくらいの時間を化粧品に費やしているのだろう。百円ショップでも多様なコスメが販売されている今の時代、中高生のみならず、ともすると小学女子までメー

クをしている。そして美への欲求は臨終間際、いや死化粧という風習もあるくらい、死後もなお尽きることがない。そう考えると女性にとって化粧は、睡眠と同じくらい体や生活に密接しているのかもしれない。そんなことを考えながら、今回の取材

テーマ「ビューティツーリズム」を提唱する東栄町へと車を走らせる。

同町は、ファンデーションの原料であるセリサイトを日本で唯一産出する地域。ここで採掘されるセリサイトは、その品質の高さから「奇跡のパウダー」と称され、世界のコス



東栄町の中心を流れる振草川は、鮎やあまご釣りのメッカとして知られ、新緑の春と紅葉の秋には秘境ならではの美しい景色が楽しめる



「のき山学校」は、閉校した旧東栄町立東部小学校の校舎を活用し、観光交流の促進と集落の活性化を目的に生まれ変わった体験施設。東栄町観光まちづくり協会の事務局にも使われている

メティック市場でもトップシェアを誇る。そんな“美の原産地”で、まちの宝を活かした手作りコスメ体験naoriを核とした「ビューティツーリズム」が推進されているという。訪れるだけでキレイになれるような錯覚めいた期待に胸を膨らませながら、会場となる体験交流館「のき山学校」へ到着した。

地域おこし協力隊の挑戦

迎えてくれたのは、東栄町観光まちづくり協会メインコーディネーターでnaori代表の大岡千紘さんと、同町地域おこし協力隊でnaoriの講師を務める鑑廣景子さん。お二人にnaoriの立ち上げとビューティツーリズムについて話を伺った。

大岡さんは和歌山県出身。京都造形芸術大学在学中、島根県の石見神楽のまちおこしプロジェクトへ参加したことをきっかけに、各地の祭りや過疎地の地域振興に関心を持つ

ようになった。大学卒業時に参加した「地域おこし協力隊」の説明会で、以前訪れ印象深かった「花祭」の開催地・東栄町と再会。

「ここに運命的な縁を感じたということもありましたが、面談した多くの市町の中で東栄町のみ、他の方ではなく、ぜひあなたに来てもらいたいと熱心に声を掛けていただきました。うまく口説かれた感じです」と笑う大岡さん。求められる環境で地域おこしに挑戦してみたい、という思いに突き動かされ、この町へやってきたのが2013年4月。しかし、最初の1年は思いが空回りするばかりだった。「漠然とした思いだけで来ていたので、自分が何をしたらいいのか、地域に何が求められているかがわからず、辞めようと思ったことも度々ありました」。

どのように地域にコミットしたらいいのか悩んでいた折、地元でセリサイトの採掘・精製業を営む三信鉱工株式会社の三崎順一社長と出会う。naori立ち上げは、三崎社長のアイデアがきっかけだった。

まちの宝に光をあてる

東栄町を含む奥三河地域4市町は、消滅可能性都市と言われている。後日話を伺った三崎社長も、人口減少による地域の弱体化をヒシヒシと感じながら、その打開策を思案

していたそうだ。そんな時、若い女性の間で化粧品を手作りする趣味があるということを知り、自社の鉱山とその産物（セリサイト）を活かした、原産地ならではの「手作りコスメ体験」ができないかと閃いた。三崎社長のアイデアを聞いた大岡さんは「これだ!」と感じる。自分がやるべきことは、こうした地域に根付いたまちおこしのアイデアを膨らませ、実現していくことなのだ、と。

早速、三崎社長が紹介してくれた株式会社「生活の木」協力のもと、手作りコスメ体験指導のノウハウを学び、体験キットなどを揃えた。大岡さんならではの感性を活かし、事業のイメージ戦略を練る。取り組みに共感したデザイナーの友人が「出世払い」とリーフレット等の印刷物制作に協力してくれた。そのデザインは実に洗練され、「美」を追い求める女性の心を惹きつける作りになっている。ホームページ等のweb発信もしかり。

事業名のnaoriは、鉱山用語で「鉱脈の特に品位の高いところ」を指し、それが鉱脈の交差部分や傾斜が変わるところに形成されることから、「誇りを持って人と人が交わり、そして変わっていくこと」を願ってネーミングした。試行錯誤の末、naori事業は2015年6月にスタート。三崎社長との出会いから約1年、大岡さ



大岡千紘さん（写真右）と東栄町地域おこし協力隊の鑑廣景子さん

東栄町観光まちづくり協会の大岡千紘さん（写真右）と東栄町地域おこし協力隊の鑑廣景子さん

「美の地産地消」を目指して

naoriの目的は「ビューティツリズム」。すなわち「美」をコンセプトとした観光振興。プログラムには、セリサイトを使ったファンデーションやチーク作りだけでなく、コスメのルーツを辿るセリサイト鉱山探検、町特産のハチミツ、ハーブを使ったリップクリームやバスボムを作るメニューもあり、体験を通じて東栄町の魅力を紹介している。

「naoriは東栄町へ足を運んでもらう入口のひとつ。この町でしかできない体験交流から移住・定住、そして地域活性化につなげていきたい」。そう話す大岡さんは、協力隊の任期終了後、町の要請で東栄町観光まちづくり協会を立ち上げた。naori専属職員として新たに2人の地域おこし協力隊員を受け入れ、事業の企画・運営を引き継ぎ、自身はさらに広い視点での観光施策へと活動の幅を広げている。

今年、協力隊としてnaoriに加わった鑑廣さんは、愛知県岡崎市出身。自身が敏感肌だったこともあり、食や生活環境など自然に寄り添ったライフスタイルを追い求め、全国各地を転住してきた。そんな折、naoriのスタッフ募集を目にし、事業趣旨に共感。即座に応募した。



上：鉱山を案内する三信鉱工株式会社の三崎順一社長
右：セリサイト鉱山探検 3,000円（90分、税別）



ファンデーション作りの説明をする鑑廣さん。ミネラルパウダーファンデーション作り3,000円（90分、税別）



左上：愛知大学の学生グループ。中山間地域の活性化を学ぶゼミの勉強も兼ねての参加
左下：海外産に比べ、純度の高い東栄町のセリサイトは白さが輝く
右：愛知県内から参加のカップルはリップクリーム作りを楽しむ。リップクリーム作り2,000円（60分、税別）



「わたしは正直、愛知県に自分の求める生活環境はないと思って、外へ出ていたんです。それが灯台下暗し。naoriや大岡さんに出会って、ふるさとの資源や魅力を再発見しました。今は、コスメはもちろん、野菜やハーブなども手作りしています。東栄町は「水」がいいので、体の内側の美容につながる素材も高品質なんです」と話す鑑廣さん。「美の地産地消」を目指すnaoriブランドの新商品開発にも意欲を燃やしている。

手作りコスメを体験

実際に、鑑廣さんが講師を務めるファンデーション作りに参加した。参加者は筆者のほかに9人。カップルや学生、主婦など年齢層もさまざま。いずれも愛知県内からお越しとのことだった。

ファンデーションの原料となるセリサイトの説明、東栄町の特産品や観光地の紹介、地域おこし協力隊の活動など、体験と織り交ぜながら伝えられるnaoriのコンセプトに興味深く耳を傾ける参加者。東栄町産と海外産のセリサイトを見比べると、白さやキメの細かさなど、その差は歴然。東栄町のセリサイトの品質の高さに、一同感嘆の声をあげる。作業はいたってシンプル。6種類の材料をそれぞれ



セリサイトを計量スプーンで量る



完成した手作りファンデーション



材料を乳鉢で丁寧に混ぜ合わせる



色味はそれぞれの肌色に合わせて、講師が調整してくれる



ファンデーション作りのキット一式

れ計量して乳鉢に加え、ひたすら混ぜるのみ。こんな簡単にファンデーションが作れるのかという驚きとともに、シンプルだからこそ、直接肌につける素材の品質や安全性を知ることの大切さをあらためて実感した。

移住者のビジネスモデル

naoriをきっかけにスタートした東栄町の「ビューティツリズム」。事業3年目の今年5月には商標登録し、名実ともにオンリーワンを確立した。昨年の参加者実績は約1300人。リピーターや口コミに加え、多くのメディアに取り上げられたこともあり、着実に集客を伸ばしている。その取り組みは近隣市町にも波及。本年度県の事業で、奥三河観光協議会が「美と健康」をテーマとする広域発信の

取り組みをスタートした。naoriはそのアドバイザーとして招聘され、組織を牽引する。

地域おこし協力隊をはじめとする移住者を巻き込んだまちおこしの取り組みは、全国的にもますます広がりがつつある。しかし、移住者という性質上、彼らの活動が本当に地域のためになるような事業設計でなければ、住民はそうそう歓迎も協力もしない。さらに、行政の手を離れて継続していくには、収益性のあるビジネスとしても成り立つ必要がある。そのどちらに傾いても続かないのが実情だろう。

東栄町のビューティツリズムは、地域側からのアイデアを、まちおこしを担う移住者が実現・発展させ、利益を地域に還元するという、良いサイクルがうまく回ってい

るように感じた。三崎社長はnaoriの知名度が上がるにつれ、住民にも自信が出始めたようだと言う。「花祭以外何もないと思っていた我がまちに、こんな世界に誇れる宝があるじゃないか」と。

我がまちを誇る。まちづくりのスタートはそこからだ。

【文・白波瀬聡美】



東栄町が誇る「花祭」のシンボル神鬼（さかきおに）。祭りは国の重要無形民俗文化財に指定され、毎年11月から3月にかけて各地区で開催される

東栄町はこんなまち



愛知県の東北部に位置する、人口3,257人、面積123.38kmの町。標高1,016mの明神山を筆頭に700mから1,000m級の山々が峰を連ね、その間を流れる天竜川水系の谷筋に多数の集落が点在する。日本でも東栄町のみで産出し、世界中の高級化粧品メーカーでファンデーションの原材料にされている鉱物「セリサイト」や、2017年に清流めぐり利き鮎会でグランプリに輝いた振草川の鮎のほか、国の重要無形民俗文化財に指定されている花祭等があり、豊かで貴重な地域資源に恵まれている。



滋賀県米原市

ひらお 平尾 道雄 市長

びわ湖の素・米原

琵琶湖の北東部、滋賀県最高峰「伊吹山」の麓のまち、米原市。名水百選に選定される2つの名水、250を超える滝や湧水、そして観測史上世界一の11m82cmという積雪記録を持つ伊吹山の雪解け水がまちを流れ、京阪神の重要な水源である琵琶湖に注いでいます。米原市では、そんな水に恵まれた“びわ湖の素”米原ならではの観光振興や移住定住施策を進めており、新たな人の流れも生まれつつあります。

体験型自然観光

米原市では、水源の里ならではの豊かな自然と交通の利便性の高さを生かした体験型自然観光を進めています。

アウトドアメーカーのモンベルグループと連携しながら、自転車、トレッキング、カヌーといったアクティビティを通じて自然を体感し、地域の歴史や文化を味わい、人々との交流を楽しむ「ジャパンエコトラック」に登録し、米原市に実際に訪れて地域の魅力を五感で楽しむ取り組みを進めています。

また、JR米原駅には新幹線駅直結のサイクルステーションをオープンし、県内市町やサイクルステーションを運営するNPO法人「五環生活」、市民団体「マイクリング・プロジェクト」などと連携しながら、琵琶湖一周サイクリング『ビワイチ』の普及に努め、『ビワイチプラス』として市独自のサイクリングツアーを実施するなどサイクルツーリズムを推進しています。

昨年末に開催された国土交通省の「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト2017では、市民団体や企業など多様な主体とともに企画した体験型自然観光ツアー「びわ

湖の素・米原 日本遺産と水源の旅」が最優秀賞を受賞することができ、体験型自然観光への全国的な評価を得ることができました。

米原市では、自然や地域資源を生かし、市民や企業とともに「水源の里まいばらだからこぞできること」を形にして発信することで関係人口の創出を目指しています。

自伐型林業みらいづくり隊

琵琶湖を育む水源の里として、清らかな水を守り未来に引き継ぐためには、森林を健全な姿で保つことが必要であり、そのためには、山村地域経済を活性化し、計画的に里山の整備ができる自立・持続的な林業の仕組みが必要です。

この仕組みを創るため、2017年10月に市最北部・姉川源流域の東草野地域において、市民団体「東草野まちづくり懇話会」とともに活動する『自伐型林業みらいづくり隊員（やまもりびと）』を募集し、林業の担い手・リーダーにチャレンジする3人の隊員を迎え入れました。

東草野地域では、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の自伐型林業にチャレンジし、間伐等の森林整備やかつての薪炭林



の里山整備を計画的に進め、広葉樹を含む木材を生産し、その木材に建材、家具、エネルギーなど多様な価値を付加する地産地消・6次産業化への取り組みを広げています。

これまでの森林整備の多くは、森林組合などが他所の山林に出向いて高性能林業機械で効率的かつ大規模に間伐施業を行ってきましたが、自伐型林業では、地域住民や移住者自らが、低コストで環境負荷が少ない最低限の装備を用いて少人数で自分たちの山林を永続的に経営・管理する仕組みをとっており、中山間地域再生の切り札として期待を寄せているところです。

水源の里の新たなスタート

緑豊かな森林、澄んだ空気、きれいな水など、生命を育む水源の里の魅力に対する注目は高まっています。滋賀県においては、日本一の湖である琵琶湖とその水辺景観が「日本遺産」に認定されるなど、水源の里への関心、人を誘う環境と機運、若者間で広まる「田園回帰」の流れは日増しに強まっているものと感じています。周回遅れのトップランナーという表現がありますが、流行廃りに左右されない、地方ならではの価値観や感性が新しい暮らし方、生き方のスタート地点にたどり着いたのではないのでしょうか。



滋賀県最高峰 伊吹山



サイクリングコース「伊吹せんろみち」



自伐型林業みらいづくり隊員



日本遺産「東草野の山村景観」



江戸時代末期から続く風味豊かな伝統の味

とちお 栃尾あぶらげ

(5枚入り) 870円(税込)



長岡市

新潟県中央部に位置する、人口274,977人、面積891km²の市。内陸部から日本海までの広い地域を持ち、美しい棚田の原風景や関牛・錦鯉の養殖等の伝統文化など、個性豊かな地域資源にあふれている。南長岡ガス田の天然ガス産出量は日本一を誇る。また、日本三大花火大会として有名な長岡まつり大花火大会や多くの日本酒の蔵元があることなどから、観光地としても多くの人で賑わう。

常太豆腐店
〒940-0216
新潟県長岡市栃尾新町4番地15号
Tel 0258-52-2745



江戸時代末期に江戸から栃尾に伝えられ、工夫を重ねてつくられてきた「栃尾あぶらげ」。「あぶらげ」とは栃尾の方言で、「油揚げ」を意味します。特徴は、何といてもその大きさと作り方。長さ20センチ、幅8センチ、厚さ3センチと通常の約3倍の大きさになる油揚げを、中までふっくら仕上げるために、にがりを入れるタイミングの調節など豆腐づくりから工夫し、また低温・高温の油での二度揚げなど、ふつうの油揚げにはない手間ひまをかけて作られています。

栃尾あぶらげの誕生は、江戸時代中期に遡ります。この頃、火の神を祭る「秋葉神社」が隆盛を極め、神主が

ら「参拝者向けに何か特別なお土産を考えてほしい」と相談を受けた近所の豆腐屋が江戸で修行し、持ち帰ったのが油揚げでした。その後、馬市(馬の売買)が盛んになっていくにつれて、豪快な仲介人たちが酒の肴として好むようになり、広く食べられてきました。

栃尾には、現在も油揚げ店が20軒ほどあり、お店によって異なる味をその場でいただくことができます。また、毎年6月に開催される「とちお自慢市」では、量1枚分の「巨大あぶらげ製作」が恒例行事。大人6人がかりでつくるそうですよ。

【文・並河杏奈】

読者プレゼント

栃尾あぶらげ(5枚入り) 3名様

アンケート

- Q1. 面白かった・関心を持った記事
- Q2. 今後取り上げてほしい内容
- Q3. 水源の里への思いや本誌に関するご意見・ご感想

プレゼント応募方法

はがきにアンケートの回答と住所、氏名、電話番号を明記の上、下記宛先『水の源41号』読者プレゼント係までご応募ください。
【平成30年7月30日(月)消印有効】

※当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。
※ご応募いただいた方の個人情報は、商品発送以外の目的では使用しません。



本誌に関する
お問い合わせ、
ご連絡先は

▲全国水源の里連絡協議会 『水の源』編集委員会

綾部市役所 定住交流部 定住・地域政策課 〒623-8501 京都府綾部市若竹町8番地の1
TEL: 0773-42-4271 FAX: 0773-54-0096 E-mail: teijyutiiki@city.ayabe.lg.jp
http://www.suigenosato.com/index.htm

定期購読のお知らせ

『水の源』を年4回お手元にお届けします。年間購読料 1,000円(送料込)
お申し込みは、上記の電話、ファクス、メール、ホームページから

協議会だより

第10回全国水源の里フォトコンテスト作品募集

テーマ

「水源の里」の四季折々の自然風景、人々の生活や祭事、その地域を象徴する風物など、水源の里の魅力が表現された作品を募集します。

※「水源の里」とは

全国水源の里連絡協議会では、過疎高齢化が進み集落の維持が困難な地域を「水源の里」と位置づけ「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」理念のもと、集落再生に向けた取り組みを行っています。

応募資格

プロ・アマ、年齢、性別、国籍を問いません。

応募プリントサイズ等

- ・平成27年8月以降に撮影したもの。
- ・作品の周辺に、余白または余黒を設けること。
- ・四ツ切(ワイド可)又はA4、インクジェット出力可。
- ・カラー・モノクロ自由、単写真に限る(合成写真不可)。
- ・複数応募可

受付及び締切

平成30年6月1日から8月31日まで(最終日消印有効)
作品の受付通知が必要な方は、返信用はがきを作品に同封してください。

応募料

1点1,000円。2点目以降1点増えるごとに500円追加
株式会社ゆうちょ銀行(郵便局)で、次の振替口座へ8月31日までにお振込みください。

<振替口座番号> 00930-1-254159

<口座名> 水源の里フォトコンテスト

賞

- グランプリ(1点) ……賞金20万円
- 総務大臣賞(1点) ……賞金5万円
- 農林水産大臣賞(1点) ……賞金5万円
- 国土交通大臣賞(1点) ……賞金5万円
- 特選(10点) ……賞金1万円

審査員

田沼武能(一般社団法人日本写真著作権協会会長)
鷲田清一(哲学者、京都市立芸術大学学長)

選考結果

平成30年9月下旬に直接本人あてに通知します。
平成30年11月上旬に京都府舞鶴市で表彰式・入賞作品展覧会を開催予定。グランプリ並びに各大臣賞入賞者は、表彰式への出席を依頼します。

注意事項

- ①応募作品は、写真作品に限ります。過去にコンテスト等で入賞、入選された作品は応募できません。また、現在コンテスト等に応募し、まだ結果が判明していない作品も応募できません。
- ②応募作品の著作権は、撮影者に帰属します。入賞作品の使用権は、2年を限度に主催者側に帰属します。また、水源の里事業の広報などに使用することがあります。入賞者はネガ・ポジフィルム(デジタルの場合はデータ)を提出していただきます。
- ③入賞作品の作品原版(フィルムまたはデジタルデータ)は、2年を限度に、主催者がお預かりして、広報活動に使用するなどし、使用期間満了後、撮影者に返却します。
- ④作品の返却希望者は応募時に返信用封筒・切手を同封してください。
- ⑤被写体の肖像権、著作権には十分ご注意ください。
- ⑥応募者は応募規定、注意事項をすべて了承したものとみなし、違反した場合は入賞を取消す場合があります。
- ⑦応募作品の取り扱いには十分注意しますが、万一の事故に対する責任は負いかねますのでご承知ください。

応募・お問合せ先

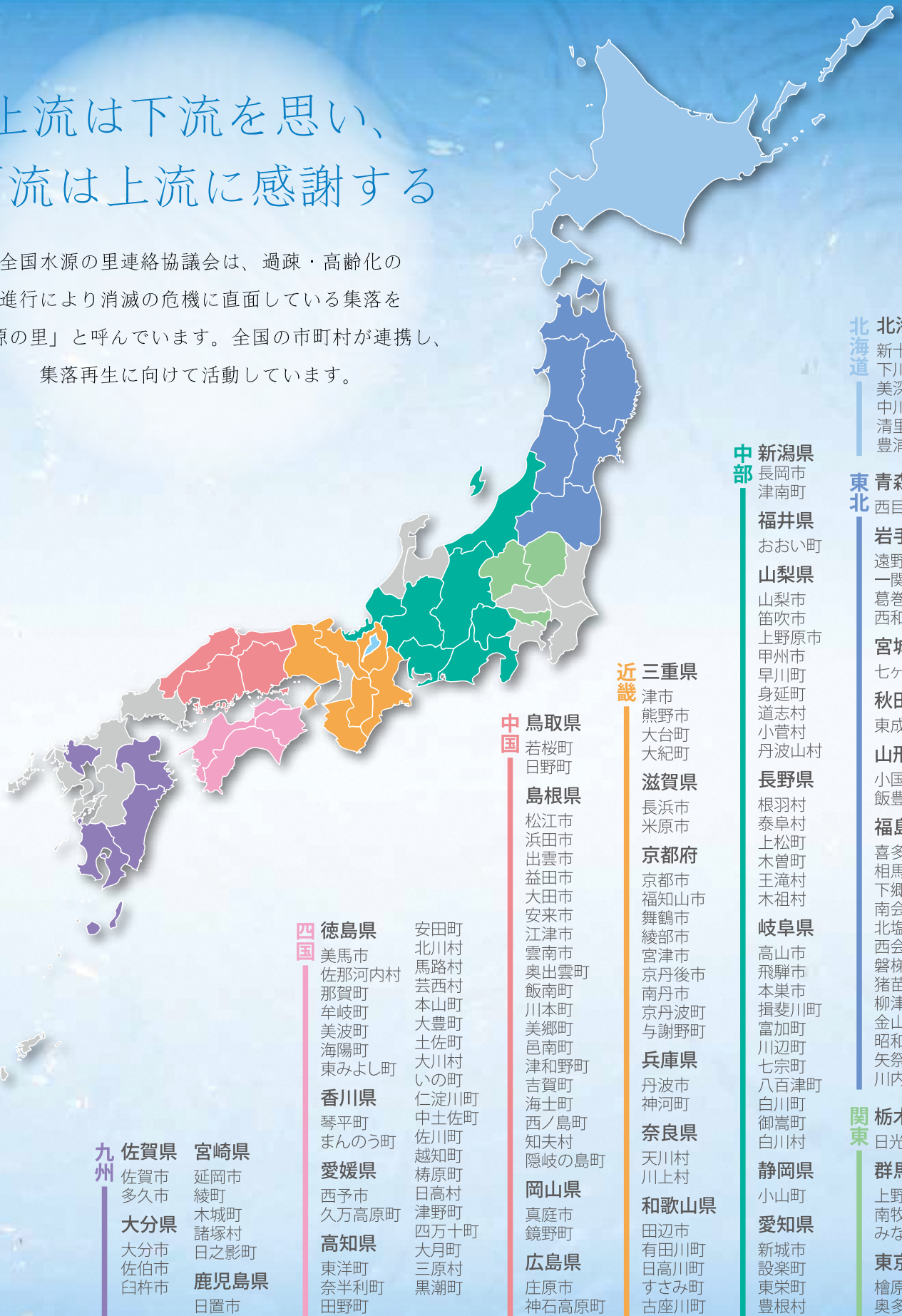
左記宛先「フォトコンテスト事務局」まで
応募要項・過去の入賞作品は、協議会ホームページでも紹介しています。
http://www.suigenosato.com/



第9回グランプリ作品
「青春の湖」

上流は下流を思い、 下流は上流に感謝する

全国水源の里連絡協議会は、過疎・高齢化の進行により消滅の危機に直面している集落を「水源の里」と呼んでいます。全国の市町村が連携し、集落再生に向けて活動しています。



北海道
新十津川町
下川町
美深町
中川町
清里町
豊浦町

青森県
西目屋村
岩手県
遠野市
一関市
葛巻町
西和賀町

宮城県
七ヶ宿町
秋田県
東成瀬村
山形県
小国町
飯豊町

福島県
喜多方市
相馬市
下郷町
南会津町
北塩原村
西会津町
磐梯町
猪苗代町
柳津町
金山町
昭和村
矢祭町
川内村

栃木県
日光市
群馬県
上野村
南牧村
みなかみ町

東京都
檜原村
奥多摩町

新潟県
長岡市
津南町
福井県
おおい町
山梨県
山梨市
笛吹市
上野原市
甲州市
早川町
身延町
道志村
小菅村
丹波山村

長野県
根羽村
泰阜村
上松町
木曾町
王滝村
木祖村

岐阜県
高山市
飛騨市
本巣市
揖斐川町
富加町
川辺町
七宗町
八百津町
白川町
御嵩町
白川村

静岡県
小山町
愛知県
新城市
設楽町
東栄町
豊根村

三重県
津市
熊野市
大台町
大紀町

滋賀県
長浜市
米原市
京都府
京都市
福知山市
舞鶴市
綾部市
宮津市
京丹後市
南丹市
京丹波町
与謝野町

兵庫県
丹波市
神河町
奈良県
天川村
川上村

和歌山県
田辺市
有田川町
日高川町
すさみ町
古座川町

鳥取県
若桜町
日野町

島根県
松江市
浜田市
出雲市
益田市
大田市
安来市
江津市
雲南市
奥出雲町
飯南町
川本町
美郷町
邑南町
津和野町
吉賀町
海士町
西ノ島町
知夫村
隠岐の島町

岡山県
真庭市
鏡野町
広島県
庄原市
神石高原町

徳島県
美馬市
佐那河内村
那賀町
牟岐町
美波町
海陽町
東みよし町

香川県
琴平町
まんのう町
愛媛県
西予市
久万高原町
高知県
東洋町
奈半利町
田野町

安田町
北川村
馬路村
芸西村
本山町
大豊町
土佐町
大川村
いの町
仁淀川町
中土佐町
佐川町
越知町
椿原町
日高村
津野町
四万十町
大月町
三原村
黒潮町

佐賀県
佐賀市
多久市
宮崎県
延岡市
綾町
木城町
諸塚村
日之影町
大分県
大分市
佐伯市
臼杵市
鹿児島県
日置市

私たちは水源の里を
応援します!!

全国環境整備事業協同組合連合会
一般社団法人 全国浄化槽団体連合会
全国森林組合連合会

全国農業協同組合連合会
電気事業連合会
独立行政法人 水資源機構

独立行政法人 水資源機構
公益社団法人 大分県薬剤師会